

自由論題

「1970～80 年代における大字の海外進出が果たした政治的役割ーアフリカ諸国を中心としてー」

木下 奈津紀（きのした なつき）

本報告で取り上げる大字は、朴正熙政権下で形成された、後発のいわゆる「新興財閥」である。「新興財閥」である大字は、その事業拡大を図るため、他企業が未開拓の地へと進出を図った。

1970 年代は、中東建設ブームにより中東からの建設発注が急増していた。大字の総帥金宇中は、中東への進出を図りつつも、他企業の未開拓地であるアフリカや中南米に目を向け、新市場の開拓に乗り出した。そして、アフリカについては、スーダン、リビア、ナイジェリアなどに進出を図った。当時、これらの国家は、外交・経済面で北朝鮮が排他的優越性を確保していたが、金宇中は積極的に経済交流を進め、最終的には経済・外交関係の構築が実現した。

このように、1970 年代以降、経営戦略として積極的にアフリカ諸国への進出を図った大字であったが、結果的には冷戦下における韓国とアフリカ諸国との外交関係構築にも貢献することとなった。そこで、1970 年代～80 年代における大字のアフリカ諸国、特にリビアとスーダンへの進出過程を明らかにし、大字のアフリカ諸国への進出が果たした政治的役割について考察したい。